

南丹市子育て発達支援センター運営委員会議事録

令和元年度 第1回

(令和元年5月23日)

令和元年度第1回南丹市子育て発達支援センター運営委員会議事録

1. 日 時 令和元年 5月23日 (木)
開 会 午前10時 00分 閉 会 午前11時 30分

2. 場 所 南丹市役所 4号庁舎 2階会議室

3. 協議事項 別紙次第のとおり

4. 出席委員 平井委員 平家委員 村上委員 矢嶋委員
安木委員 平田委員 中澤氏 (渡邊委員代理)
寺尾委員 寺田委員 松本委員 西田委員
蔭山委員 塩貝委員 濱田委員

5. 事務局 福祉保健部長 榎本
社会福祉課課長 矢田
社会福祉課係長 山崎
社会福祉課心理士 大谷
つくし園施設長 長田

6. 傍聴人 0名

1 開会

2 委員長あいさつ

村上委員長：委員の皆様、ご出席いただきましてありがとうございます。民生児童委員協議会の副会長をしております村上と申します。新しい年度を迎えまして、誰もが穏やかにすごせると実感できる年でありますようお願いしております。本日は、南丹市及びつくし園より報告いただき、協議事項を皆様方に審議していただきます。なにとぞご協力のほどよろしくお願いいたします。

以下、村上委員長が議長となり進行

3 平成30年度 発達支援相談事業実績報告

事務局より資料1・2を基に報告。

平成30年度 児童発達支援事業実績報告

事務局より資料3を基に報告。

4 事業報告について質疑

A 委員：発達支援相談事業の報告で、子育て発達支援センターの職員が1名減の体制の中で、実績数を落とすことなく、相談事業を遂行できていたことは一緒に連携している関係機関として、実感している。子育て発達支援センターの業務には二面性があると思っている。ひとつ目は、全体的な子どもたちの発達の底上げ、ふたつ目は支援が必要な子どもを早期発見し、支援に繋げる役割があると思う。そのなかでも特に園巡回実績数から、全体的な子どもたちの発達の底上げや支援ができていると感じているところである。つくし園においても、療育利用時の送迎実績から、保護者が家庭内で協力しながら送迎をしたり、保護者自ら子どもたちに向きあう姿勢や姿がみられたとの報告があり、素晴らしいことだと思う。家族会の交流会では、全体で100人を超える参加者だったと報告を受け、大勢の人が集える場所があることは素晴らしいと思う。

B 委員：たくさんの事業を丁寧に取り組み、保護者も子どもたちも安心して相談がうけられていると思う。子どもたちの発達や生活状況をみると、家庭状況や保護者の対応なども関係があると思う中で、ペアレントトレーニングも積極的にセンターで取り組んでいる事業と思っている。ペアレントトレーニングについて、どのようなスタッフが主体的にかかわっているのか、全6回シリーズの1回毎の開催間隔を聞きたい。

事務局：スタッフは心理士2名で対応しているが、他事業によって、1名で対応することもある。1回毎の間隔は1ヵ月に1回程度、半年間かけて実施している。

C 委員：平成 30 年度、南丹保健所では、管内の療育教室それぞれが共通して全体的にレベルアップしていくことを目指し、「発達障害児はぐぐみ事業」を実施した。令和元年度も継続するので、引き続きお願いしたい。

古いデータになるが、27・28 年度に実施した発達障害に関する調査で、園で支援が必要な子どもが約 20%いるとの結果であった。南丹市の専門相談は、乳幼児健診や保育所・幼稚園などから案内され、きめ細やかに対応していると思っている。相談件数は年々増加していくと考えられるが、キャパシティーは大丈夫なのか。

事務局：相談事業に関して、希望があった場合は、長期間待たせることがないように、早めに相談日の案内を心掛けている。年間計画で相談日程を確保しつつ、発達相談と OT 相談については、臨時枠を随時開設して対応をしている。心理士と作業療法士が常勤である強みと考えている。発達クリニック・発達支援クリニックや言葉の相談に関しては、医師・言語聴覚士を外部に依頼しているため、年度途中で日程を増やすことは出来ない。医師の相談に関しては、例年予約の空枠がある。言葉の相談に関しては、例年は随時予約可能であったが、平成 30 年度末の 1～3 月に相談希望が集中し、予約枠が全て埋まった。近隣病院の言語療法外来を受診するか、言葉の相談の空予約を待ってもらうかを保護者に選択してもらい、保護者の不安に少しでも早く対応できるように対応した。

D 委員：丁寧にきめ細やかに対応をしている反面、どうしても個別性が高くなっているところが気になるところである。私たちの事業所でも、保護者に寄添うことが大切と思い送迎サービスを行っている。当日に迎えに行けるためキャンセルが入るということは、よい意味から考えれば、保護者がきちんと子どもを迎えに行くという視点になる。しかし、事業所にとっては、変更が生じるということは、当日に 1 日 20 数名の送迎体制を変更し、1 軒 1 軒に連絡をする事態が生じてしまう。そのことを保護者は感じているのか？ 2 市 1 町という広範囲の送迎のため、送迎が変更になると保護者がまだ帰宅していない時間帯になるなど、対応に追われることになる。個別性を重視され、“あれができる・これもできると言われてきた。昔はできたのに・・・”と保護者が感じているのではないかと懸念している。きめ細やかな個別対応と集団の中のいち利用者であるという視点で、対応が必要なのではないか。就学後の放課後や長期休暇をどう過ごすのか、就学先を支援学校にするのか支援級にするのか普通学級にするのかを、早めの時期に家族で考えて欲しいと思う。また放課後児童クラブにするのか放課後デイサービスにするのかもしっかり考えてほしい。習い事の抽選に洩れたから、放課後デイサービスに行きたいという保護者からの相談もある。放課後デイサービスしか利用出来ない子どももいる。“学童期の過ごし”ということ、イメージを持って将来設計をして、学童期を迎えてほしい。私たちは、限られた定員のなかで必要な子どもに優先して携わりたいと思っている。定員がいっぱいの状況であるので、つくし園を利用している間に就学後のイメージを持ってもらえるように保護者支援をしていただきたい。

事務局：保護者の気持ちという視点では、しっかりと保護者に向き合いながら支援をしていきたいと考えている。また南丹市の福祉部門が関連している分野では、支援学校に通学中の支援内容と卒業後の国の基準による福祉的就労時の支援内容はきめ細かさが違っており、卒業後の支援という点で、子どものために何が必要なのか、どうすべきなのかというところを保護者に説明し、それぞれの事業で、どのようなことを目的としているのかをしっかりと伝えていきたいと思っている。今後とも連携をお願いしたい。

村上委員長：他にいかがですか？

特に無いようでしたら協議事項に入ります。

協議事項について、事務局より報告をお願いします。

5 令和元年度 発達支援相談事業計画について
事務局より資料4を基に報告。

6 令和元年度 児童発達支援事業計画について
事務局より資料5を基に報告。

7 令和元年度 年間予定について
事務局より資料6を基に報告。

8 事業計画・年間予定について質疑

A 委員：30年度のペアレントトレーニングについて、個別対応が多かったと報告があった。グループで実施することに有効性があると思っているが、参加者が少ないことによる個別対応であったのかを知りたい。とてもよい事業だと思っているが、大変な事業でもあると思っている。希望者はなかなか集まらないものなのか？

D 委員：ペアレントトレーニングは、以前私自身が支援者側で参加していたことがある。そのときは4から6名ぐらいの集団で実施しており、他の保護者がどんなふうに関わっているのか、参考になっていたと思う。保護者の仕事の都合などで来所できないため、個別対応が多くなっているのか？

事務局：つくし園に通っている保護者や発達支援相談利用の保護者に案内をしている。平成30年度は4名の参加で、令和元年度前期は2名の参加である。1回目は集団で、その後は保護者同士の仕事の都合などで予定が合わないときは個別対応をし、予定が合えば集団で実施ができるように、調整を行った。

C 委員：他市の療育教室では、親子で来所後子どもたちが療育を受けている時間にペアレントトレーニングをしているところもあるが、南丹市はそういう体制ではないのか？

事務局：その対応をしている保護者もいるが、全員が療育を利用しているわけではない。日程を案内して実施をする体制をとっている。

D 委員：ペアレントトレーニングの内容から考えると、絶対やりたいという人でないと続かない内容であると思う。全6回シリーズで、1回参加をすると次回までに子どものよいところを見つけてくる、毎回それを発表する。どう子どもとうまくコミュニケーションをとるか、どうすれば親の気持ちが伝わるか、なぜこんな行動をするのだろうかなど、本当に学びたい・親として力を着けたいという思いがなければ、続けられない。子どもを褒められない自分を責めてしまい、しんどくなることもある。うまくできないという葛藤の中で、それを自分のせいにしてしまうと、参加をしても6回継続することは大変なことである。みんなに協力してもらって、こんなふうになると楽しんで子どもと向き合える・・・という精神的な余裕がないと参加は難しいと思う。子どもと向き合っていきたいと願う保護者に発達支援センターが頑張っ取り組もうとしている意識はよくわかるが、私自信もペアレントトレーニングの支援者として参加した経過もあり、保護者のしんどさも見ている。案内したときに応募がなければ、それが現実だと思う。

事務局：事業実施経過として、以前ペアレントトレーニングの集団実施を案内していたが、参加がゼロになったことがあった。運営委員会で実績報告をしたところ、事業の参加者がゼロということはよくないという意見があり、個別対応も検討することになった経緯がある。今、指導者で来ていただいたことがある委員や他委員から、集団実施に意義があるという意見もでており、基本的には全6回を参加できる方という形で案内し、実績はゼロになる可能性はあるが、集団実施の方向で事業運営をしていく。以前、ある園の保護者会総会開催時、発達支援センター職員に講師依頼があり、ペアレントトレーニングのさわりの部分を紹介したことがあった。平成28年後半から30年度までは職員体制が減であったため、従来の事業を優先して事業展開をしてきたが、令和元年度から職員体制も整い、保護者会などで講師依頼があった時に、ペアレントトレーニングの紹介をすることで、教室参加の糸口にする取り組みをすることも一つだと考える。

E 委員：つくし園は、南丹市の委託事業で運営をしている。事業報告・事業計画で報告があったように子育て発達支援センターをはじめ、行政・各関係機関と連携を密にしながら運営し、会議などで協議をしている。療育を必要とする子どもが増え、二部制にしたことで待機児童がなく、随時受け入れられる体制がとれたことは大きな前進と思っているが、今後もハード面・ソフト面において南丹市と協議をしていきたい。早期発見・早期療育は必要だと思っており、多種多様なニーズや背景を踏まえながら家庭支援も大切であると考えている。

事務局：これまでの運営委員会で、近隣の市町村と比較して南丹市は手厚い支援ができていますが、輸送事業は本当に当事者のためになっているのか、保護者がすべき役割をしっかりと考えた上で検討していかなければならないのではないかという意見もでています。令和元年度の計画では、輸送事業について、継続を希望する意向が多いとは思いますが、利用者のアンケート調査を実施し、事業の意義づけや保護者の実態を把握したいと考えています。南丹市として取り組むべき課題がたくさんある中で今後どのように事業の見直しをしていくかは、南丹市全体の課題である。担当課としては、輸送事業の必要性や継続を財政当局に伝えていく。

村上議長：それぞれの委員の皆様から貴重な意見をいただきました。ほかに質問等はありませんか。

特に無いようですので、協議事項の令和元年度事業計画及び年間予定に関して、承認していただける方は挙手をお願いいたします。

→全員挙手。

協議事項の①～③の事業計画・年間予定は承認されました。ありがとうございました。

議長降壇

事務局：本日はいろいろとご意見をいただきましてありがとうございます。それでは閉会にあたりまして平田副委員長にご挨拶をいただきます。

平田副委員長：たくさんのご意見を賜りました。協議事項について、全て承認いただきありがとうございます。大変貴重な意見をお伺いしましたが、南丹市においては子育て支援は主要な事業となっています。わたくしたち議会議員としましても、みなさまのお声を支援する立場で、これからも積極的に推進していけたらと思っています。今後ともご指導ご支援のほどよろしく申し上げます。本日はありがとうございました。

閉会